

# 野村

NOMURA

# 萬齋

MANSAI

# 狂言の夕べ

KYUGEN NO YUBE

番組

「萩大名」

「棒縛」



# 2019.12.18 (水)

開場 / 18:30 ロゼシアター 中ホール  
開演 / 19:00 富士市文化会館 (富士市蓼原町1750番地)

◎チケット発売日

WEB: 9月26日(木) 10:00~ / 窓口: 9月27日(金) 10:00~

◎チケット取り扱い

- ・ロゼシアターホームページ <http://rose-theatre.jp>
  - ・ロゼシアターチケット窓口 (9:00~20:00)
  - ・ローソンチケット 0570-084-004 (Lコード / 43101)
- ※ロゼシアターでお求めの際には「ロゼフレンドシップ」への登録が必要です。

◎入場料 (全席指定・税込)

1階席 6,000円 2階席 5,500円 学生 1,000円

※未就学児入場不可。 ※学生券は25歳以下の学生が対象です。  
※車椅子席は、ロゼシアターへお問い合わせください。  
※公演終了後、臨時バスを運行します。(有料) ロゼシアター ▶ 新富士駅 (220円) ▶ 富士駅 (250円)

◎お問い合わせ

ロゼシアター 0545-60-2500 (9:00~22:00)

主催: 公益財団法人富士市文化振興財団



ロゼシアター駐車場の収容台数には限りがあります。周辺店舗への駐車は大変迷惑となりますのでご注意ください。

解説

野村太一郎

萩大名  
はぎだいみょう



大名 石田 幸雄  
太郎冠者 中村 修一  
亭主 深田 博治  
後見 石田 淡朗

近々都から帰国することになった田舎大名が、太郎冠者の案内で、とある庭園に萩の花見に出かける。風流者の亭主が、来客に必ず一首所望することを知っている太郎冠者は、「七重八重 九重とこそ思ひしに 十重咲きいつる 萩の花かな」という聞き覚えの歌を大名に教えておく。見事な庭を楽しんだ後、いよいよ歌を詠むことになるが、大名は…。

実力はあっても風流に欠ける大名を風刺するだけでなく、無邪気で大らかな人物として描くところに狂言らしさがある作品です。のどかな風情が漂う舞台を、ごゆっくりお楽しみ下さい。

棒縛  
ぼうしばり



太郎冠者 野村 萬齋  
主 石田 淡朗  
次郎冠者 野村太一郎  
後見 中村 修一

二人の家長が、留守番中に酒蔵の酒を盗み飲んでいと知った主人は、太郎冠者を棒に、次郎冠者を後ろ手に縛って出かけてしまふ。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについて成功する。酔った二人が謡えや舞えやと大騒ぎしている…。

自由の利かない手で酒蔵の戸を開けたり、舞を舞ったりと、遊び心に裏付けられた自由さがある作品です。観ているこちらにも心楽しくなれる、狂言の代表作の一つです。



野村萬齋  
のむらまんざい

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦・山月記・名人伝」「国盗人」「子午線の祀り」など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開会式・閉会式のチーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター！。



石田幸雄  
いしだゆきお

1949年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の『三番叟』『釣狐』『花子』をすでに初演。国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。主宰していた「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより『国盗人』など新しい試みの舞台でも存在感を見せる。普及公演での的確な解説にも定評がある。学習院大学非常勤講師。

